

ハイブリッド開催で帰ってきた！

お申込み <https://forms.gle/J7AUb95vu8JMQGkY8>

お申込み
QRコード



六華サロン

お問い合わせ: rikka6salon@gmail.com

2024.2.29 (木) 19:00~20:45

リアル会場 本の森ちゅうおう (京橋図書館) 参加費 500円
多目的ホール (裏面の地図をご参照ください)

オンライン ZOOM 参加費 無料
(リアル・オンラインともに、終了後に懇親会を予定しています。)

岡野 直さん (南28期) 戦時下のウクライナを歩く



1960年、北海道生まれ。東京外国語大学
ロシア語学科卒業。

1985年、朝日新聞社入社。プーシキン・ロ
シア語大学(モスクワ)に留学後、朝日新聞
西部本社社会部を経て、東京社会部で基地
問題や自衛隊・米軍を取材。シンガポール
特派員の経験もあり、ルワンダ虐殺、東ティ
モール紛争、アフガニスタン戦争など、紛争
地取材の経験も多い。2021年からフリー。

全国通訳案内士(ロシア語)。関心はウク
ライナ、ロシア、観光、文学。今回が初の単
著。共著には『自衛隊—知られざる変容』
(朝日新聞社)がある。



破壊された街で、失われた日常に

—そこに生きる人々は何を思うのか。

現地を歩いて、見て、聞いた、市民による「戦い」の記録。

2022年2月24日、突如として始まったロシアのウクライナ侵攻。

「首都キーウはすぐに陥落する」という各国の予測を覆し、ウク
ライナは今も徹底抗戦を続ける。戦いの趨勢は逐一報道され、ゼレン
スキー大統領の一手一投足は注目の的だ。ウクライナのニュース
を目にしない日はない。一方で、ウクライナで今を生きる人々の声
を聞くことは少ないのではないだろうか。

強いられた地下壕での避難生活、ロシア軍による拉致・監禁、自宅近
くに落ちるミサ

イル—。

戦争で変わった日常に対して、彼らは何を感じて、日々をどう暮らし
ているのか。

本書では、そんな戦時下で生きる人々の声を、ジャーナリストが実際
に現地を歩いて

記録。ウクライナの人々の本音に耳を傾ける。